



国際美術教育学会

ユネスコ教育未来協議への対応
NGO 国際美術教育学会 (InSEA) が提出

InSEA の 2050 年ビジョン：教育の未来

Kathryn Coleman, Jonathan Silverman, Glen Coutts, Mira Kallio-Tavin, Teresa Eça, Gabriella Pataky, Samia ElSheikh, Patsey Bodkin and Sahar Khalil

執行部による概要と序論

この提案は、2050 年の教育がどのようなものになるかを扱う国際美術教育学会 (InSEA) のフォーカスグループによって議論された繰り返しのテーマをまとめたものである。このグループは、2050 年に起こりうる社会的、文化的、経済的、環境的な課題を反映し、想定し、視覚芸術がこれらの課題にどのように対処できるかに焦点を当てた。フォーカスグループは未来を見据え、教育が行われる 2050 年の状況を想像しようとした。私たちは、何を学び、どのように学び、どこで学ぶか (UNESCO, 2020) を含む 2050 年の教育の共有される目的に対処するために、知識と学習がどのように人類と地球の未来を形作るかを再検討する。

そのために、私たちは次のように問いかけた。30 年後、芸術と芸術教育はどのように変化するのだろうか。芸術家や美術教育者はこの変化をどのように導くのだろうか。協力者になるのだろうか。創造性、想像力、驚きを通じた教育変革のビジョンを持っているか。例えば、私たちが知るいわゆる「学校」を取り除き、革新的な学習空間を作ることができるだろうか。ギャラリーやその他の文化施設は、潜在的なデジタル教育・学習スペースとしてグローバル化するのだろうか。社会としてどのような社会的、文化的、技術的变化を求めているのか。2050 年の教育をどのように構想するかは、芸術による教育の将来を決めるのに役立つだろう。

InSEA は 1954 年に設立され、ハーバート・リード卿が大著『Education through Art』(1943 年) で初めて解明した教育モデルの普及を目指している。「芸術による教育は、個人の発達のあらゆる時期において学習する自然な手段であり、共同体における人間の完全な知的、感情的、社会的発達に不可欠な価値観と規律を育むものである。」最近では、美術教育者のコミュニティがリードのビジョン (Coutts & Eça, 2020; Coutts & Eça, 2019; InSEA Manifesto, 2018) を再考しているが、これは私たちの哲学的立場を要約していると考えている。視覚芸術は基本的人権であり、本質的な教育的価値があるというこ

とだ。文字を書いたり言葉でコミュニケーションを取ったりする前に、人間は印をつけたり、絵を描いたりしている。自然で普遍的な人間の活動であり、世界を探索し、調査し、コミュニケーションし、理解することに関する活動である。私たちは、幅広くバランスの取れた教育は、すべての人間の権利であり、あらゆる年齢の学習者に、ものを作ることを通して考え、好奇心を持ち、そして重要なことに、社会的に公正な空間(Manifold, Willis & Zimmerman, 2016; Coutts, 2013)で他者とながら、協力する機会を提供しなければならない。教育の全体的な目的は、共同の利益に貢献できる責任感のある創造的な個人を育成することであるべきだ。視覚芸術のプロセスは、これらの資質を発展させる自然な方法であると確信している。

ビッグ・アイデアを持続可能性、回復力、消耗性、包括性などの複雑なシナリオとして考えることで、次のトピックに思考を整理した。学習の脱植民地化、共同学習と参加型共同設計学習、革新的な学習空間、創造性と想像力である。協議の中で、今日の教師教育プログラムの学生が、2050年に変革的な理想を実現する未来の教育者であることを認識している。この重要な協議の結果が、教師教育が養成と現職の両方で行われる方法について批判的な見直しを支援することを期待する。この文書を作成する共同作業の過程で、大陸を越えて私たちの多様な経験と専門知識が集約された。想像力とレジリエンスを用いて、コミュニケーションと執筆プロセスを容易にするために、テクノロジーを使って私たちの思考を整理した。細かな点では、私たちの協働は2050年のビジョンをモデルにしていると考えている。

2050年には、西欧の産業的な教育構造は時代遅れになると InSEA は考えている。例えば、分野、時間枠、評価、年齢の区分化、カリキュラムと教訓的学習の定着化は、もはやグローバル社会のニーズを満たさないだろう。教育はビジネスではなく、学習者は製品ではない。多くの文化、特に西ヨーロッパ諸国では、評価、比較一覧表、最も役に立たない種類の競争が過度に強調されているのを見てきた。測定とテストに対するこの不健全な執着は、測定が容易であるために政治用語で一定の「価値」を達成するものに焦点を当てる傾向がある。視覚芸術、特にデザインでは、測定するのははるかに難しいが、人類にとって非常に価値のある特性や資質が開発され、いわゆる「厄介な問題」(Kolko, 2012)にますます対処するために必要になるだろう。視覚芸術教育は、例えば、レジリエンス、共感、協力、粘り強さ、寛容さを育む。

2050年の教育の全体的な目的は、共同の利益と地球の保全に貢献する責任感のある創造的な個人を育成することであると InSEA は主張している。幅広いバランスの取れた教育は、すべての人間の権利である。視覚芸術は、あらゆる年齢、文化、民族の学習者に、世界を理解するための複数の視点を持つ機会を提供し、問題提起や問題解決に想像力を利用できるようにする。加えて、意欲的な学習者のように機敏な若者には、レジリエンスと粘り強さが育まれる。他者に共感し、つながりを持ち、他者と協力することができる研究者として、機知に富み、学際的である(InSEA Manifesto, 2018)。描画と工作は自然で普遍的な人間活動である。2050年には視覚リテラシーが不可欠になる。地球市民が世界を探検し続けるためには、様々なメディアを使って調査し、コミュニケーションを取り、理解や好奇心を表現する必要がある。

InSEA は、学習者が状況に出会い、さらなる公益に向けて、世代間のグループを含めて協力し、さらに発展させる革新的な学習空間または「状況」(現在考えられているような「学校」ではない)を想定している。思考し、コミュニケーションし、協力するために視覚化する能力は、何十年もの間、視覚芸術教育の中心であった。InSEA の2050年の教育ビジョンには、包括的で異文化間の創造的かつ批判的な思考を取り入れた学習状況が含まれており、そこでは学習者が教育体験を共創する。革新的な学習空間という私たちのビジョンの中で、地域や国ならでは伝統的な学習と働き方は、2050年以降にどんな革新がもたらされようとも、共存していくだろう。基本的には、視覚芸術、視覚的思考、そして作ること(Hetland et al, 2007; Kallio-Tavin, 2018)が、地球市民が共に平和に暮らし、世界を大切にすることを教育するのに役立つと考えている。

今日私たちが大多数の国で使用している教育システムを見てみると、最悪の場合、教育は排除と競争力によって推進されており、評価と評価のシステムに縛られており、検証されていないか、少なくとも、知識のすべての分野を同じように認識していることが分かる。例えば、芸術は、ほとんど非主観的な分野において、「ハード」科目ほど重要ではなく、「ソフト」科目として指定された、教育の周縁化された

部門にあることが多い。

私たちは主観的で暗黙知を認めるより人間的な視点で新しい教育パラダイムを目指す。空間的知性、視覚的知性、感情的知性である。2050年には、学習者は、気候変動や遊牧社会によって変化した地球に生きるための解放の形として、問題解決のスキルを開発する。それは、多くの国で、不安定であり、逆境に満ちたものとして予見できる未来のためのものである。自然の中で共に生き責任を持って生きていくことを学ぶ2050年の世界には、以下の四つのテーマが欠かせないと考えている。

学習の非植民地化

ヨーロッパ中心主義の視点は、世界中の教育を特徴づけ、著しく不当な影響を与えてきた。私たちの信念は、美術教育は、先住民と非植民地化された知識と実践の両方を受け入れ、平等、公平、アクセシビリティ、持続可能性、公正、社会正義を重視する包括的なカリキュラムを開発する平等主義的な教育シナリオに再び焦点を当てるための強力なツールになり得るということである。美術教育は、人種主義、性差別、階級主義、能力主義、種差別に反対する教育において、積極的な主導権を握り続けると私たちは信じている。

視覚芸術教育は、異なる文化的アイデンティティや主観を重視し、地域社会を学習の場として評価する学習分野である。地域や国ならではの非植民地化された知識と実践を受け入れる美術教育は、亡命希望者、難民、困難な状況に生きる人々と同等の学習機会を可能にする。最も重要なことは、美術教育のカリキュラムが非ヨーロッパの中央集権的な視点から知らされ、書き直されることである。美術における西洋の学問の規範を打ち破るには、日常的に悩み、再検討する必要がある。倫理的で非暴力的な教育には、人間以外の種に対する敬意も含まれる。これは、2020年に他の種の服従が日常化した世界では難しい課題である。共感教育とクリティカルエンゲージメントの文脈における美術学習は、将来、学生が人間以外の生活(Kallio-Tavin, 2020)に共感するように導くであろう。

私たちは、協力的で参加型の教育と学習の戦略には、地域や国ならではの視点と経験が含まれると信じている。教育の実践は、先住民の人々と本質的に協力して、彼らの物語や歴史をカリキュラムに取り入れ、彼らの土着の教育方法を導入する。視覚芸術の多様性と包括性は、相互の異文化間学習の共有と理解に寄与し、多世代及びコミュニティの関与へのアクセスを提供する。

学校は現在、第4次産業革命(World Economic Forum, 2020)の課題に積極的に対応していないというのが私たちの見解である。私たちは、文化的インターフェース、知識、知識の起源、物語の起源を破壊し、シフトさせる知識システムと構造の接合を望んでいる。私たちの願いは、芸術家、美術教育者、芸術部門が協力して、地域や国の指導者たちと民主主義教育のモデルを共同設計することである。InSEAは、教育実践の非植民地化の出発点を提供できる、コミュニティベースの美術教育の優れた例と地域や国のモデルを支援し、普及させている。私たちは、知識、教育、学習に関する地域や国ならではのモデルを認識し、祝福しようとし、報告する。多くの国では、単に現在のヨーロッパ中心の焦点ではなく、複数の知識システムがあることを強調している。私たちの信念は、ケアと倫理のための白人と西洋の指向ではない調査を通じて知識を脱植民地化することによって、コミュニティの新しい理解を探求しなければならないということである。

他の人々の物語を展開することには、もつれを解き、脱植民地化に取り組むための「利益収斂の原則」の深い内省が含まれるだろう。将来のカリキュラムモデルは多元的でなければならず、先天的な植民地的価値観による二極化を避けなければならない。暗黙知など、文字に記録されていない人間の状態を探求するには、複数の声と、世界を知り、表現する方法が不可欠である。私たちが学ぶ必要がある先住民やファースト・ネーションの伝統には、どのような物語や知識が具体化されているのだろうか?これらの物語と知識は、人類の利益のために我々が共に鋭敏に働くのに役立つだろうか?これらは、将来の学習についての根本的な再考を支える重要な問題であると考えている。

教育の将来像は、学校における芸術のための十分な物理的・時間的空間を備えた、学際的かつプロジェクトベースのものである。また、教育水準が高く、専門性の高い美術教員、芸術に基づく教育研究手法を原動力とし、関連する経験を実践する美術教員が重要である。これは芸術家の役割を否定するものではなく、むしろ教育の役割の専門性と特徴的な性質を強調するものであり、優れた教育者をキャリアを通じて教育し、支援するには時間がかかる。これらの美術の専門的な教師は、多様な社会文化的背景から引き出され、社会の構成の変化を反映しなければならない。視覚芸術の教育と学習は、多様性の理解と他者の文化の尊重（平和のための教育）を促すために、共同またはグループの経験として受け入れられるべきである。

共同および参加型の共同設計学習

2050年には、教育の焦点は共同設計学習に置かれると考えている。2020年よりも、教育は生徒と教師の人間関係、コラボレーション、共有された統合学習を重視するようになるだろう。複雑さの世界的な共通の問題に対処する学際的かつ異文化的な発見により、教育プロセス全体にわたって探求が固有のものとなる。InSEAとしてマニフェスト（2018）の備考：「すべての学習者は、自分の世界や文化史と深く結びつく美術教育を受ける権利がある。それは、彼らが新しい見方、考え、行い、存在する方法へのオープニングと地平を作る。」

教育者は、人間として共に生き、管理責任を持ち、環境の中で心を込めて生きる能力に対処する戦略を開発する上で革新的であろう。学習は、知識の探求と共感、想像力、インクルージョンの促進を統合する。「他者」の発見は、共通の目的への関与の共同体験につながり、人間であることの意味についての認識を拡大するだろう。社会正義、気候変動、食糧、水不足などの問題の共通の探求は、各個人の全体的な発展（持続可能な開発目標）の基礎となる。

学習は、1日の中の独立した構成要素ではなく、共有された経験へと進化する。探索と知識の認知と感覚の方法を統合することが奨励されるだろう。デザイン思考を通して、イメージを解説し、質を差別化し、物語的な視覚リテラシーを発達させることは、学生が批判的で創造的な思考(Eisner, 2002)に取り組むために不可欠なコミュニケーション能力となる。2050年には、教育プログラムとカリキュラムモデルによって、自信に満ちた柔軟な知能と、創造的な言語的および非言語的コミュニケーションスキル(InSEA Manifesto, 2018)を持つ市民が準備される。

2050年の教師は、知識を単一の事前に決定された商品としてではなく、異文化間のインターフェースの中で発見の複数のプロセスとして探求するだろう。これまでのように、何でも知っている教師と生徒を非活動的な参加者として扱う、教訓的なヒエラルキーは少なくなるだろう。私たちはここで、自由教育とパウロ・フレイレ(1969)を認め、教育の「銀行」モデルに反対する積極的なシフトを推測する。共同学習環境には、教師が学習者であり、学生が教師であり、コミュニティメンバーが積極的に関与する、魅力的で包括的な参加者がいる。各学習者は、他者と効果的に協力し、独立して仕事をするために、リーダーシップスキルと気質を開発する。教育者は知識の「創造」を育む。美的な体験と共感的なストーリーテリングのための空間を作ることは、敏感なコミュニケーションを可能にし、ポジショナリティ、すなわち特定の社会的文脈(Silverman, 2016)の中で人が採用する価値を認識させる。私たちの自然環境の熱心な観察とケア、そして不正義の認識と対応は、教育学と意味をつなぐ発達過程と見なされるだろう。

革新的な学習空間

InSEAは、2050年の学習空間は、学習者の積極的で協力的な関与、脱植民地化カリキュラム、包括的で複数の発見プロセス、想像力と美的知覚の育成を受け入れる教育へのアプローチを反映すると考えている。学習環境の設計は、「共通善」とグローバルな動員の理解と発展を強調する。教育センターは、学習者

がコミュニティセンター、地球上に居住する物理的空間、デジタル文化の間を簡単に移動できるようにする。

2050 年以降も、さまざまな「学校をやる」方法が登場するだろう。革新的な学習空間は、包括的、異文化間、創造的であるだけでなく、学習者が教育環境を設計、共同設計、共同作成する起業家精神を反映する。教室のコンセプトはスタジオに近いものを想定している。移動可能かもしれないこれらのスタジオスペースは、世界を探索し、複雑な問題を問い詰める機会を満たされるだろう。革新的な学習空間は、様々な素材、遊びをベースにした物や工芸品にアクセスできる芸術的探究心を養うだろう。それにもかかわらず、学習者は、永続的で持続可能で開かれた構造として、集合的な学習のための個別の物理的構造、空間、時間を持つことが重要である。

学習者は、複数の方法で知識、経験、リテラシーに出会う必要がある。2050 年には、教育コミュニティが環境を視覚化して、地域や世界の社会文化的な文脈に最適なコミュニケーションを取り、批判的に考え、創造的に対応するためには、芸術が不可欠となるだろう。技術的・3 次元的な空間をシームレスに移動し、鋭い観察力、柔軟性、実験、コラボレーション(Eisner, 2002)を養うことの重要性が高まるだろう。

創造力と想像力

歴史上、人類は想像力と創造力を駆使して不測の事態に立ち向かうことで生き残り、繁栄してきた。InSEA の私たちは、包括的で、協調的で、レジリエンスがあり、持続可能な 2050 年の世界を作るためには、学習環境が想像力を養う必要があると信じている。2050 年にどのような形を想定しているかにかかわらず、教育は、当時の社会的、文化的、経済的、環境的な問題に批判的かつ直感的に対応する必要がある。私たちは想像力(Greene, 1995)を解放し、共に生き、地球を守る責任を負う中で、異なる視点を思い描く必要があるだろう。2050 年の学習環境は、哲学者マーサ・ヌスバウムが「物語の想像力」と表現するものを育むだろう。そこでは、人生の文脈における他者の物語を深く学習することによって、私たち自身の自己理解を拡大する(1998)。視覚芸術に関わることは、物語の想像力に耳を傾け、先住民やファースト・ネーションの人々の物語を取り入れるための自然なコミュニケーションであり、同時に学習空間の新しいモデルを思い描くことでもある。

2050 年には、学習環境は多世代およびコミュニティ指向の学習を反映する。経験、探求、協力、学際的アプローチに焦点を当てた統合カリキュラムである。今日の学校で知られているような構造をはるかに超えた教育環境を考える新しい方法である。そして、科学、技術、工学、芸術の共生関係にあり、知識は過去と未来の不確実性を結びつける俊敏なものとして再構築されるだろう。想像力との関わりは理想的には、地球市民をビジョンと謙虚さ、驚きと忍耐、共感と責任の健全な相互作用へと導くだろう。

2050 年の識字率は流動的であるか、教育者のジョン・デューイが表現したように「柔軟な目的」(1938)を含む必要がある。知識の転移を強調するのではなく、目標を妥協しない探究によって発見するという探究プロセスの柔軟性が賞賛される場所に、探究の活力が促されるであろう。2050 年には、学習スペースは、学習者が可能性を想像し、水の不安定さ、貧困、環境破壊、移住、不正などの世界的な問題に対処するために、支援的で信頼できる関係を構築するように促すだろう。学習環境が想像力を促進するのは、教育哲学者マキシン・グリーンが思い出させてくれるように、私たちには機会がある。「何が隠されているのかを明らかにしたり、何が起きているのかを文脈化したり、私たちが端に追いやっている弁証法を仲介したり、それが私たちを生き続けさせているかもしれない。」(1995, p. 115)。創造的なプロセスは、今では知覚できないものを知覚するために、私たちが健康的な感覚に保つ。確かに 50 年前には、例えばデジタルメディア、ワールドワイドウェブ、ズームなどは想像もつかなかっただろう。30 年後に人間が相互作用する様々な方法を想像することはできないかもしれないが、観察、知覚、つながりを豊かにする美的経験への積極的な参加が、私たちの社会が「美」を解釈する方法や、美が持つ社会的、文化的、環境的な意味合いのすべてに影響を与えると確信できる。

想像力と美的知覚を育む一つの方法は、創造的プロセスに積極的に関与するための学習空間を開くことである。創造のプロセスは探求から始まる。実験、発見、問題提起、問題解決は、学習を所有するための豊富な経路である。2050年の教育を想像すると、視覚芸術は健全な世界社会に必要な素質を最適化すると考えられる。描画、デザイン、デジタルメディア、または3D構築の視覚リテラシーに積極的に取り組むかどうかにかかわらず、あらゆる時代とあらゆる文化の学習者に、新しい発見の学習空間に住み、協力する想像力を提供する。視覚芸術は、人生を肯定し、2050年により良い未来をもたらすために実行可能な心の習慣を生み出す。視覚的な調査、非日常的な方法での問題への対処、問題と課題の再構成、パターンに気づく、探求と分析に従事する、好奇心に従う、曖昧さに取り組む、批判的に考える、人や資源と協力する、視点を広げるためにメディアを活用するなどの気質は、すべて複雑な社会文化的問題に対処するための自然で包括的かつ強力な方法であり、私たちの視点から見ると、2050年の学習の中心になる(Eisner, 2002; Spehler & Slattery, 1999; Taylor, 2011; Tepper & Kuh, 2011)。

学校の構造、教科、成績、能力の時代遅れの区分化に代わる実行可能な選択肢を分解して発見し、自動化、教訓主義、地方のコミュニティや文化的パラメーターを超えて進化するためには、創造的な精神と創造的な協力を歓迎するアプローチが必要である。創造的なプロセスは複数を受け入れ、学習者に世界と出会い、コミュニケーションするための進化する方法を提供する。学習空間は、共に生きるグローバル社会と自然界の文脈の中で、感情的、知的、身体的、精神的な学習を結びつける子ども全体を教育する。2050年の変革的思想家は、他者から刺激を受け、アイデアを生み出し、評価し、修正し、実行し、熟考する経験を積むだろう。視覚リテラシーは、心と魂を解放し、教え方と教え方を変え、世界的な文脈における自己の再認識に貢献する。

結び

InSEAのメンバーとして、平和、インクルージョン、多様性、理解の価値が教師と学習者の両方の学習状況に暗黙的に含まれる教育システムを予見している。教育体験は、高度な専門的美術教育者が目的に適した革新的な学習空間で行われる。参加者（学習者と教師）の間で普及する教育的視点は、美術の実践、マインドオンロジー(Hetland, 2007)のスタジオ習慣、人間以上の世界と人間以外の世界を知るための死後の方法を受け入れる。教育システムは、非フォーマルおよびインフォーマルな学習方法を通じて、状況に応じた知識とその伝達の有効性を認識し、統合する。

さらに、教育は、学習と評価のための統一された基準を課すことなく、異なる能力を持つ人々を統合するのに十分な包括的かつ機敏な、いたるところにある柔軟で革新的なシステムのセットとして構想されている。2050年には、すべての教育者(地域に根ざした実践者、先住民のリーダーや長老、両親、学際的な研究者教育者)が、視覚芸術とデザインの教育経験を、サービス開始前およびサービス中の専門的学習の不可欠な部分として評価するようになる。視覚芸術を学習の中心に据え、グローバル・コミュニティは、包括性と多様性を組み込み、革新的な教育学を育成し、創造性と想像力を育み、誠実さ、共通善、「現実世界」の問題に対処するために学習空間を再設計する機会を持つ。

THE INTERNATIONAL SOCIETY
FOR EDUCATION THROUGH ART

References

- Brown, M. (2020). Learning Spaces. 2020.
<https://www.educause.edu/research-and-publications/books/educating-net-generation/learning-spaces>.
- Coleman, K.S. (2018). Mapping the Nomadic Journey of Becoming in Digital Portfolios: Digital wayfinding in art education. *Australian Art Education*. Vol 39 (1). 91-106.
- Coutts, G. (2013). Applied Visual Arts: Learning for the Real World? In: Jokela, T. & Coutts, G., et al (Eds.). *Cool: Applied Visual Arts in the North* pp. 22-31 Rovaniemi: Faculty of Art and Design, University of Lapland.
- Coutts, G. & Eca, T. (2020) *Learning through Art: International Perspectives*. InSEA Publications.
doi:10.24981/978-LTA2020
- Coutts, G. & Eca, T. (2019) *Learning through Art: Lessons for the 21st century?* InSEA Publications. DOI:10.24981/978-LTA2018
- Craft, A. Jeffrey, B. & Liebling, M. (Eds.). (2015). *Creativity in Education*. London: Continuum.
- Cropley, A (2002) *Creativity in Education and Learning: A Guide of Teachers and Educators*. London: Kogan Page
- Dewey, J. (1938). *Experience and Education*. New York, NY: Macmillan.
- Eisner, E. (2002). *The arts and the creation of mind*. New Haven, CT: Yale University Press.
- Eisner, E. (2002). *The Arts and the Creation of Mind*, In Chapter 4, *What the Arts Teach and How It Shows*. (pp. 70-92). Yale University Press.
- Harland, J., Lord, P., Stott A., Kinder, K. Lamont, E. & Ashworth, M. (2005). *The Arts-Education Interface: A Mutual Learning Triangle?* Slough, UK: National Foundation for Educational Research. DOI 1903880955.
- Hetland, L., & Teachers College (New York, N.Y.). (2007). *Studio thinking: The real benefits*

of visual arts education. New York: Teachers College Press.

InSEA (2018). The InSEA Manifesto. <https://www.insea.org/InSEA-Manifesto>

Kallio-Tavin, Mira (2020). Art education beyond anthropocentrism: The question of nonhuman animals in contemporary art and its education. *Studies in Art Education* 61(4).

Kallio-Tavin, M. (2018). Youth Visual Culture Practices and Their Relevance for Art Education in Finland,

MAGYAR TUDOMÁNY , 179 (6). 773-781 <https://doi.org/10.1556/2065.179.2018.6.2>

Kallio-Tavin, M. (2016). Perceptions of the changes in the Finnish art education curriculum. *Educational*

Research. 1/2016. <http://nevelestudomany.elte.hu/index.php/2016/04/perceptions-of-the->

[changes-in-the-finnish-art-education-curriculum/?lang=en](http://nevelestudomany.elte.hu/index.php/2016/04/perceptions-of-the-changes-in-the-finnish-art-education-curriculum/?lang=en) Budapest: Neveléstudomány, 37-42.

Kolko, J. (2012) *Wicked Problems: Problems worth Solving. A Handbook and Call to Action.* Texas: Austin Center for Design.

Lígia F., Ernst W., Luísa V., Teunis I., & João T. L. (Eds.). *Arts and cultural education in a world of diversity, Yearbook of the European Network of Observatories in the field of arts and cultural education (ENO).* Wiesbaden: Springer.

Manifold, M., Willis, S., & Zimmerman, E. (2016). *Culturally Sensitive Art Education in a Global World: A Handbook for Teachers.*

Millennium Development Goals (MDGs). 2020. :[https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/millennium-development-goals-\(mdgs\)](https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/millennium-development-goals-(mdgs))

Nussbaum, M.C. (1998). *Cultivating humanity. A classical defense of reform in liberal*

education. Cambridge, MA: Harvard University Press.

Polyák, E& Vajda, Z. (2017). The future of education, <http://www.geopolitika.hu/hu/2017/06/06/az->

[oktatas-jovoje/](http://www.geopolitika.hu/hu/2017/06/06/az-oktatas-jovoje/)

Read, H.G. (1943). *Education through Art.* London, Faber.

Robinson, K. (2002). *Out of Our Minds: Learning to be Creative.* Oxford: Capstone Publishing Limited.

Seoul Agenda

http://www.unesco.org/new/fileadmin/MULTIMEDIA/HQ/CLT/CLT/pdf/Seoul_Agenda_EN.pdf

Silverman, J. (2016). Becoming empathic storytellers: A curriculum for developing cultural sensitivity.

In M. Manifold, S. Willis, E. Zimmerman (Eds.) Cultural Sensitivity in a Global World: A Handbook

for Teachers Reston, VA: National Art Education Association.

Spehler, R. M. & Slattery, P. (1999). Voices of imagination: the artist as prophet in the process of social change. *International Journal of Leadership in Education*, 2 (1), 1-12.

Sustainability Development Goals [http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/environment/earth-sciences/unesco-global-](http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/environment/earth-sciences/unesco-global-geoparks/sustainable-development-goals/)

[geoparks/sustainable-development-goals/](http://www.unesco.org/new/en/natural-sciences/environment/earth-sciences/unesco-global-geoparks/sustainable-development-goals/)

Taylor, B. (2011). The skills connection between the arts and 21st-century learning.

Education Week, 30 (19), 22, 26

Tepper, S.; Kuh, G. Let's get serious about cultivating creativity September 4th, 2011. *The Chronicle Review*

World Economic Forum (2020) Fourth Industrial Revolution
<https://www.weforum.org/focus/fourth-industrial-revolution>